

年 組 名前:

山学小児童スイーツ開発

洋菓子店と連携 150個完売



甲府・山梨学院小6年のグループは3日、甲府市中央1丁目の洋菓子店「早川ベーカリー」（小川義美社長）と連携して開発したオリジナルスイーツを、同市丸の内1丁目のレンタルキッチン「あひすや」で限定販売した。用意した150個は2時間ほどで完売した。（桑原久美子）
販売したのは、山梨特産の「たすい」スイーツ「パブルドロップ」ブドウや水晶からイメージし（800円）。早川ベーカリー



オリジナルスイーツを販売した山梨学院小の6年生グループ＝甲府市丸の内1丁目の「あひすや」



開発したオリジナルスイーツ「パブルドロップ」

のキャラメルチョコムースに、子どもたち手作りの綿菓子のようなあめ細工を飾っている。購入者が好みのチョコスプレーなどをトッピングできる。

考案したのは高3野世織さん、雨宮颯太郎さん、伊奈幸紀さん、森川凜さんでつくるグループ「Snack Gum（スナックガム）」。5年生のときに社会課題からビジネスアイデアを構想する学校のプ

ロジェクトで結成し、これまでになかったスイーツの企画・販売を計画した。2月には小中高生がビジネスプランを考案する「YINEXT（ワイネクスト）2025」（県主催）で優秀賞、「Vivit Base企業賞」を受賞し、「あひすや」に出店する権利を獲得。早川ベーカリーの協力を得て1日限定の販売が実現した。

児童は自分たちで収支計画を立て、資材を用意するなどして金額を設定。当初はドーナツ型あめ細工を載せる予定だったが、湿気の多い時期であることから綿あめ型に変更するなど調整した。学校の創立記念日の休みを利用して出店。開店直後から行列ができ予定の100個が早々になくなり、追加で用意した50個も完売した。

リーダーの高3野さんは「夢にも思わなかった菓子販売が実現できてうれしい。お客さんを目の前にして責任も感じた」と話した。小川社長は「子どもたちの熱い思いを感じた。将来に生かしてほしい」と話した。

(2026年6月4日付 山梨日日新聞 15面)

問1 ^{やまなしがくいんしょう}山梨学院小^{ねん}6年のグループが、^{かしてん}菓子店と^{れんけい}連携して^{かいぱつ}開発したスイーツの^{とくちょう}特徴を^{こた}答えてください。

.....
.....

問2 ^{こうあん}スイーツを^{こうそう}考案したグループは、なにを^{けっせい}構想するプロジェクトとして^{けっせい}結成されましたか。

.....
.....

問3 グループは、スイーツを作るだけでなく、^{はんばい}販売するまでに、どのような^{さぎょう}作業を^{おこな}行いましたか。